

テーマ名		事業内容	事業期間	委託予算額
募戦1	フェロアロイに関する国際標準化	フェロアロイは鉄鋼の副原料として、鉄鋼の品質・性能に大きな影響を与えるものであるが、我が国では現在、フェロアロイのほとんどの品種を輸入しており、その品質を確保する観点から、国際規格の整備に積極的に関与していく必要がある。本事業では、フェロアロイのうちフェロマンガ及びシリコンマンガンのりん定量方法の国際規格について、我が国の規格をベースとした形で、日本の実情も踏まえ、国際標準化を行う。	3年	950千円(上限)／初年度
募戦2	プラスチックの非接触熱分析法に関する国際標準化	モバイル機器やLED照明器具等の高性能化・小型化が進み、放熱性に優れた熱伝導性の高い樹脂製放熱基板の需要が急速に高まっており、当該分野の開発を加速化して我が国製品の優れた特性を客観的かつ適切に示す手法の開発が急務である。このため、本事業では、非接触で熱伝導性能を分析する手法について国際標準化を行う。	3年	2,400千円(上限)／初年度
募戦3	溶液中で非解離性水素核を有する食品に対する水素核定量核磁気共鳴分光法(1H qNMR法)ー食品添加物でもある安息香酸の定量分析法ーに関する国際標準化	SITレーサブルな分析値を求めることができ、かつその精度も極めて高い水素核定量核磁気共鳴分光法(1H qNMR法)の国際標準化を日本主導で行う。当該分析方法を用いることで、食品添加物の定量分析の精度が向上し、安全性に関する情報がより正確に求めることができるようになるため、食品の一層の安全性確保に資するものである。	3年	6,000千円(上限)／初年度
募戦4	ISO/TC85/SC2(放射線防護)分野における国際標準化	福島第一原子力発電所事故以降、放射線環境モニタリングに関して見直しが行われ、よりきめ細やかな対応が求められている。このため、本事業を通じて、我が国の経験・知見・技術を生かし、国際標準化を行う。	3年	5,350千円(上限)／初年度
募戦5	インターネット・モバイル環境におけるリスク管理のためのセキュアエレメント及びその利用技術に関する国際標準化	個人認証を利用したサービスは年々拡大しており、特に近年ではスマートフォンに代表されるモバイル環境で個人認証を行うケースが出てきている。しかしながら、モバイル環境での個人認証は、セキュアエレメント機能が搭載されたICカードでの個人認証と比べてセキュリティが劣っている。モバイル環境でも同等のセキュリティを実現するために、本事業では、モバイル環境に合ったセキュアエレメント機能の利用技術と国際標準を開発する。	3年	5,000千円(上限)／初年度
募戦6	ISO/TC94分野(SC14除く)における国際標準化	保護衣・保護具に関する国際標準は安全に関するものであり、社会基盤に関わる。このため、本事業を通じて、我が国の持つ経験・知見・技術に基づき、高視認性安全服等について国際標準化を行う。	3年	2,500千円(上限)／初年度
募戦7	バイオセラミックスの生物学的多能性評価に関する国際標準化	バイオセラミックスの生体適合性評価方法、抗菌性試験、力学的性能評価方法(数値シミュレーション)等について国際標準化を行う。再生医療製品は、今後の市場の成長が見込まれる新しい医療分野に属し、各国で活発な基礎/応用研究が行われ、他国と競い合っている状況であることから、政府が産官学の横断的な関係者をとりまとめ、迅速な標準化を推進する。	3年	14,310千円(上限)／初年度

テーマ名		事業内容	事業期間	委託予算額
募戦8	光触媒材料試験用新型光源に関する国際標準化	光に反応する光触媒は、主たる光源である蛍光灯の光特性に対応して評価しているが、現在、蛍光灯に替わる新規光源として急速にLEDランプが普及している。このため、本事業を通じて、屋内照明環境で用いる光触媒試験用LED光源について国際標準化を行う。また、主に屋外光に反応するタイプの紫外線励起形光触媒試験用としてもLED光源が必要であり、これの国際標準化も行う。	3年	4,500千円(上限)／初年度
募戦9	サービスロボットのタイプ別安全規格に関する国際標準化	ISO13482に示されている3タイプの生活支援ロボットについて、平成28年に国内で商品化が進んでいるロボットを対象に生活支援ロボットの各タイプ固有の安全基準に関するJISを制定した。本事業では、これらの国際標準化を行うとともに、各タイプの共通部分については、ISO13482改訂に合わせて提案を行う。また、3つのタイプとは別のタイプの規格化についても、検討を行う。	3年	17,500千円(上限)／初年度
募戦10	医療機器のネットワーク化時代における内視鏡手術の可視化を目指したデータ出力規格に関する国際標準化	日本が技術的強みを有する内視鏡機器に関して、特に手術時に得られる画像等のデータを仕分け・選別し、二次利用が可能となるよう最適化を行った上で、データ出力について主導的に国際標準化を行う。これにより、我が国が誇る軟性内視鏡領域の国際競争力を確保することも期待できる。	3年	12,000千円(上限)／初年度
募戦11	ポリマーポリオール中のモノマー残存量の評価方法に関する国際標準化	ポリウレタン原料に用いるポリマーポリオールは、軟質ポリウレタンの改質剤としてマットレスや寝具、自動車の座席シート等に広く使用されているが、このポリマーポリオールの生産・使用における安全性を確保するためには、製造時において未反応のモノマー残存量を適切に評価して品質を管理することが重要である。このため、モノマー残存量を客観的に示すために標準化された評価手法を開発し、国際標準化を行う。	3年	3,000千円(上限)／初年度
募戦12	歯科用医療機器に関する国際標準化	歯科用CAD/CAMシステムの規格開発等、歯科用医療機器について国際標準化を行う。	3年	9,700千円(上限)／初年度
募戦13	ヘッドマウントディスプレイの人間工学的要求事項に関する国際標準化	近年、新たな電子デバイスであるヘッドマウントディスプレイ(HMD※)への期待が高まっており、実際に様々な製品が販売されると共にその利用が広がりつつある。HMDの一層の普及促進のためには、使用者に対する安心安全を担保し、その普及に不必要な障害が発生しないようにすることが必要である。本事業では、HMDデバイス及びコンテンツに関する新しい人間工学的要求事項(使用者に害を与えない要求項目、測定方法、要求基準等)を規定するための国際標準を開発する。 ※HMDには、没入型(VR=Virtual Reality)と解放型(AR=Augmented Reality, MR=Mixed Reality)を含む。	3年	20,000千円(上限)／初年度
募戦14	伝統医学領域(漢方・鍼灸)の薬品・食品・医療機器及び医療情報に関する国際標準化	漢方/生薬、鍼灸、診断機器、医療情報分野について国際標準化を行う。国内の既存の規格・公定書と齟齬を生じる国際規格の成立を未然に防ぐべく日本提案を行うとともに、海外への展開が期待される領域においては国際市場の確保、拡大を目的とした規格策定を積極的に推進する。	3年	5,000千円(上限)／初年度

テーマ名		事業内容	事業期間	委託予算額
募戦15	高速移動車両用ミリ波光ファイバ無線技術の評価方法等に関する国際標準化	携帯電話のデータや地上波デジタル放送電波送受信等の大容量通信サービスを高速移動車両において提供するためには、既存の無線通信ではその容量が不足することが懸念されている。これに対し、光ファイバ伝送線路の末端からミリ波無線伝送に置き換えて高速車両と通信するシステムが開発されている。本事業では、ミリ波光ファイバ無線局装置、アクセス技術仕様、評価方法等について国際標準を開発する。	3年	2,800千円(上限)／初年度
募戦16	ゲノム解析及び多項目遺伝子関連検査に関する国際標準化	生体由来高分子核酸(ゲノム)を対象とした解析における妥当性評価と精度管理に関する一般的定義および要求事項について国際標準化を行う。これらの標準化によって、当該分析技術を利用する遺伝子関連検査に係る業界が検査結果の質を担保し、円滑な検査体制を構築することで、国内市場の拡大が見込まれる。	3年	12,000千円(上限)／初年度
募戦17	新冷媒化に対応する自動車空調用ホース製品及びゴム・ウレタン材料の試験方法に関する国際標準化	地球温暖化対策のため、自動車空調用として新たな冷媒の使用が拡大している。また、ゴム及びウレタン材料の試験方法規格について、有害性リスクのある物質を使用しない安全な方法、試験精度向上、作業効率向上等の時代のニーズにマッチした内容が求められている。このため、本事業では、新冷媒に対応できる自動車空調用ホースの規格及び、時代のニーズにマッチしたゴム及びウレタン材料の試験方法規格を開発し、国際標準化を行う。	3年	3,000千円(上限)／初年度
募戦18	宇宙光通信に関する国際標準化	超高速通信実現のため、次の3種類の宇宙光通信の物理層(波長、通信速度、変調方式、捕捉追尾方式等)、Coding&Sync層(誤り訂正とデータ構造等)部について国際標準化を行う。	3年	4,000千円(上限)／初年度
募戦19	低侵襲放射線治療のケアコーディネーション装置に関する国際標準化	がん治療としての放射線治療には、一般的にX線、X線IMRT、陽子線、陽子線IMPT、重粒子線などの種類があり、これに動体追跡、動体追尾などの技術が組み合わされている。近年、様々ながんの病態に応じ、この組み合わせを支援するケアコーディネーション装置が開発されつつある。これらの装置の安全性を担保するための個別要求事項について、国際標準化を行う。	3年	12,000千円(上限)／初年度
募戦20	広域における地盤工学特性の評価手法に関する国際標準化	産業施設やインフラの安定的な建設・維持管理は、経済活動や社会生活の安定した継続には不可欠である。したがって、これら施設・構造物などが立地する地盤の情報は、用地選定や設計に非常に重要であるため、本事業では、情報取得に関わる微動計測機材、微動観測及び解析手法、地下構造モデル構築手法について国際標準化を行う。	3年	10,000千円(上限)／初年度
募戦21	臨床検査のハーモナイゼーション等に関する国際標準化	どこでも同じ臨床検査結果を得られ、また、診察を受けた場所に関わらずどの病院でも臨床検査結果を活用できるよう、臨床検査のハーモナイゼーションを進める。また、近年技術進展の著しいゲノム解析技術において、試料の種類、前処理法、保存方法等の国際標準化を行う。	3年	10,000千円(上限)／初年度

テーマ名		事業内容	事業期間	委託予算額
募戦22	細胞の特性評価ならびに製品製造への応用に関する国際標準化	細胞性能評価のための測定デザイン及び細胞製造安定化手法のプロセス設計について国際標準化を行う。それを通じて、日本製品の利用促進に加え、当該製品を有する日本企業と当該製品を必要とする海外企業の提携等により、日本における再生医療産業化の拠点形成に資することも期待できる。	3年	14,000千円(上限)／初年度
募戦23	紙パルプに関する国際標準化	我が国の製紙業界の海外進出が盛んに行われている。このため、紙及び板紙の主要特性項目の一つである「平滑度」の試験方法に関して、我が国で使用実績が豊富な王研式平滑度試験方法を広く普及させる観点から、JISをベースに国際標準化を行う。	3年	710千円(上限)／初年度
募戦24	遺伝子関連データベースの品質評価に関する国際標準化	産業用途の検査のためのバイオチップ開発等において必要な核酸配列のデータベース(DB)の品質指標について国際標準化を行う。DBの品質に関する標準化を我が国自らリードし、特に核酸検査の国際的な認識基準を構築することによって、バイオ関連市場、さらには我が国のシェア拡大を目指すものである。	3年	5,000千円(上限)／初年度
募戦25	アパレルECにおけるフィッティング性能の評価に関する国際標準化	衣服のEC市場が国際的に拡大する中、実際に消費者が衣服を着用した際に感じられる「フィット性」をコンピュータ上で仮想評価できる共通的な評価方法及び表記方法について、国際標準化を行う。これにより、衣服のEC市場における国際的なアドバンテージを我が国が獲得することが期待できる。	3年	5,000千円(上限)／初年度
募戦26	電子システム全体設計を実現する統合化設計検証用言語に関する国際標準化	携帯電話・情報家電など電子システムを設計する際、部品毎に異なる設計言語やツールを用いつつ、最終的に電子システムとして一体化設計が行われている。このため、部品間設計情報の変換のための多大な工数が発生するため設計が長期化することや、バグが混入する場合があること、電子システム全体に亘る設計最適化が困難となることなど、多くの問題が発生している。本事業では、これらの課題に対処するため、電子システム設計全体をカバーし、各種電子部品からシステム全体まで設計・検証可能な統合化設計検証用言語の国際標準を開発する。	3年	6,000千円(上限)／初年度
募戦27	疫学的研究データ登録及びトークンに関する国際標準化	心電図、超音波治療装置、心臓カテーテル検査装置などの医療器械から出力される計測値を疫学的データとして活用できる形式について国際標準化を行う。また、医療データの利用者を特定するトークンを活用した方式についても国際標準化を行う。	3年	10,000千円(上限)／初年度
募戦28	ブロックチェーンの用語に関する国際標準化	ブロックチェーンはFinTechなどの金融分野に留まらず、社会インフラとしての情報基盤として利活用が進み、関連ビジネスの成長が期待されている。現在、様々なブロックチェーンの拡張が試行されており、互換性・発展性を考慮した標準化のニーズが高まっている。その中でも用語を整理・規定することの緊急性が高い。本事業においては、ブロックチェーンに関する用語を規定するための国際標準を開発する。	3年	5,000千円(上限)／初年度

テーマ名		事業内容	事業期間	委託予算額
募戦29	非直交光学式座標測定システムの精度評価法に関する国際標準化	製造業で製品検査・評価に用いられている三次元測定機について、近年、高速で動作しコストに優れた「非直交光学式座標測定システム」が流通し始めている。しかしながら、統一した性能評価法が存在せず、精度が著しく悪い製品も見られるのが現状である。このため、本事業を通じて、我が国製品の世界市場における適正評価に資する、非直交光学式座標測定システムの精度評価法に関する国際標準化を行う。	3年	18,000千円(上限)／初年度
募戦30	粒子特性評価に関する国際標準化	粒子特性評価に関しては、技術の進展やニーズの変遷が進む中、それらの規格への反映が強く求められている。このため、本事業を通じて、「光散乱式液中計測器による粒子径解析」、「エアロゾル粒子の特性評価及び試験粒子発生のための電荷調整」、等に関し国際標準化を行う。	3年	3,800千円(上限)／初年度
募戦31	コンクリート及びモルタル用合成短繊維の試験方法に関する国際標準化	繊維で補強されたコンクリートは、破壊靱性などの向上や軽量化、薄肉化が図れることから需要が高まりつつある。このため、本事業を通じて、コンクリート及びモルタルの補強に用いる合成短繊維の引張強度、付着水分率、密度、融解温度、耐アルカリ性等の試験方法について国際標準化を行う。	3年	5,600千円(上限)／初年度
募戦32	機械安全に関する要員能力及びその認証手順の国際標準化	現在、工場においては様々な種類の産業機械が使われており、それらの産業機械による労働災害が多く発生している。第4次産業革命、スマート工場など、工場のグローバル化がより一層進んでいく中、現場作業員の安全を担保していくには、産業機械自体の安全性(機械安全)に関する国際規格だけではなく、機械安全業務に携わる要員についての国際的なコンセンサスが不可欠になっている。そこで、機械や機械システムの設計者等の機械安全設計、リスクアセスメントの能力を客観的に示すことを目的として、機械安全の要員能力及びその認証手順に関する国際標準を開発する。	3年	10,000千円(上限)／初年度
募戦33	IoTセキュリティガイドラインの国際標準化	インターネットに接続された組み込み機器、いわゆるIoT機器が増加したことにより、これまでに類を見ないような大規模なサイバー攻撃の発生等が危惧されている。一方でIoT機器はパソコンやスマートフォンと違い、運用を開始した後に脆弱性を修正することが難しく、設計の段階からセキュリティに配慮した開発を行う必要がある。この状況を鑑み、2016年にIoT推進コンソーシアム・総務省・経済産業省が共同で設計時の心得や管理方法をまとめたIoTセキュリティガイドラインを策定した。安全で安心なIoT環境の実現を目指すため、本事業では、当該ガイドラインをベースとした国際標準を開発する。	3年	6,000千円(上限)／初年度
募戦34	安全性と医療効率の向上を両立するスマート治療室に関する国際標準化	手術時に医療機器や検査装置から得られる画像やデータを一元的に表示させ、医師の手術中の意思決定を支援する装置の国際標準化を行う。その結果、国際標準に整合し、安全性と医療効率の向上を両立するパッケージ化されたスマート治療室の輸出を後押しすることも期待できる。	3年	19,000千円(上限)／初年度
募戦35	海綿骨モデルを含む脊椎骨周辺のモデルの力学的測定法に関する国際標準化	脊椎形状、脊椎の皮質骨、皮質骨と海綿骨との界面、および海綿骨の力学的試験法について国際標準化を行う。日本人の患者形態を考慮した上で、医療機器を適切に評価するために模擬骨の標準化は必要である。特に、今後需要がますます高まることが予想される脊椎骨の模擬骨について国際標準化を行う。	3年	5,070千円(上限)／初年度

テーマ名		事業内容	事業期間	委託予算額
募戦36	光学機器の先進化技術に関する国際標準化	デジカメ、光学ガラス、測量機器、顕微鏡等の光学機器の先進化技術に資する以下について国際標準化を行う (「分光光度計による光学部品散乱の測定方法」、「光学ガラスのVブロック法による屈折率測定方法」、「光学ガラスの化学的耐久性」、「地勢計測用ドローンによる3D計測性能試験方法」、「顕微鏡照明光源の色特性」等)。	3年	4,500千円(上限)／初年度
募戦37	工作精度試験通則に関する国際標準化	多軸工作機械は組み立て誤差が累積されやすく、各軸単体の精度が高くても総合的な運動精度を出すことが難しいため、加工される機械部品の精度に影響を与えることとなる。本事業では、機種ごとにばらばらに規定されている工作精度試験を通則として体系化するとともに、5軸加工の工作精度試験や精度の長期安定性などの工作精度試験について国際標準化を行う。	1年	3,000千円(上限)

テーマ名		事業内容	事業期間	委託予算額
募省1	分散型電源を活用した電力エネルギーサービスにおけるインターフェースの国際標準化	分散型電源の普及に伴い、分散型電源を有する需要家と電気事業者の電力システムとの間で、電力需給に関する電力エネルギーサービス事業が開始されているところ。需要家側の分散型電源を有効活用できる電力システム構築と、それに伴う電力エネルギーサービス事業の普及のみならず、関連する機器やシステムの国内外への普及拡大を目指し、本事業では、日本のユースケースに基づき、分散型電源を活用した電力エネルギーサービスにおけるインタフェースについての国際標準を開発する。	3年	34,000千円(上限)／初年度
募省2	分散型電源の系統連系に関する要求事項の国際標準化	分散型電源の導入を背景に、分散型電源の電力品質に関しては国際標準が策定されているが、系統に接続する機器に対しての具体的な要件については、統一的な規格が策定されていない。分散型電源の導入コストの低減、普及拡大を図るため、本事業では、系統連系に関わる分散電源の要求事項を日本の系統連系要件を踏まえてとりまとめ、国際標準を開発する。	3年	8,000千円(上限)／初年度
募省3	ECHONET Lite AIF (アプリケーション通信インタフェース)仕様の国際標準化	HEMSを実現するための機器間通信規格として、ECHONET Liteが日本提案により国際標準化されている。さらなるHEMS普及に向け課題となっていたマルチベンダー化を実現するため、新たにECHONET Lite AIF仕様を策定し、平成28年4月より国内で認証制度が開始されたところ。本事業では、HEMSの普及拡大を推進し、アジア等におけるHEMS市場での国内メーカーの優位性を高め、これらに関連するサービス事業の市場拡大を図るため、ECHONET Lite AIF仕様について国際標準を開発する。	3年	25,000千円(上限)／初年度
募省4	超高電圧技術及び電力貯蔵技術等を活用した高効率な電気エネルギーシステムに関する国際標準化	世界の電力需要拡大、再生可能エネルギーの大量導入などを背景として、電力流通ロスを極力抑え、大量の分散電源を有効活用するために新たな高効率電気エネルギーシステムの市場ニーズが高まっている。本事業では、我が国が有する電力用機器技術及びシステム化技術に基づき、超高電圧交流送電システムの信頼性及び安全性、高電圧直流送電システムの設計条件及び絶縁材料評価方法、並びに電気化学的エネルギー貯蔵システムの環境性等の高効率な電気エネルギーシステムに関する国際標準を開発する。	3年	30,000千円(上限)／初年度
募省5	省エネ・節水に資する低水温用電気洗濯機の洗浄性能及び信頼性に関する国際標準化	電気洗濯機の性能、特に洗浄性能の国際標準は、欧米の硬水環境を想定した規格となっており、我が国の軟水環境とは異なるものである。また、省エネ、節水性能の測定方法について、現在の国際標準では洗浄度合いを加味した方法にはなっていない。さらに、電気洗濯機の信頼性に関する国際標準が存在していない。本事業では、日本の省エネで節水に資する高品質な電気洗濯機が正しく評価されるように、軟水での洗浄性能の評価方法、洗浄度合いを踏まえた省エネ、節水性能の評価方法及び電気洗濯機の信頼性についての国際標準を開発する。	3年	18,000千円(上限)／初年度
募省6	屋内環境用光電池の性能評価に関する国際標準化	IoT社会の実現に向けて増大するセンサネットワークのセンサ用自立電源として、またスマートハウスのエネルギー補助電源として、屋内光を利用した光電池が期待されているが、現在、屋内光を前提とした光電池の性能評価方法が定められていない。本事業では、我が国の強みである高効率な光電池の普及拡大を図るため、その性能評価に関する国際標準を開発する。	3年	10,000千円(上限)／初年度
募省7	フレキシブル有機EL照明の安全性・性能評価に関する国際標準化	LED照明につぐ次世代の省エネルギー照明と期待される有機EL照明では、基板に薄膜ガラスやプラスチックフィルムを利用することにより、ペンダブル／フレキシブルな光源を作製することが可能である。これらフレキシブル有機EL照明を市場に普及するにあたっては、社会の安全・安心を確保するため、その特徴(ペンダブル／フレキシブル)に起因する新しい安全、性能の評価方法が必要となる。本事業では、フレキシブル有機EL照明の安全性・性能評価に関する国際標準を開発する。	3年	15,000千円(上限)／初年度
募省8	高速車載イーサネット物理層のEMC特性評価等に関する国際標準化	自動運転等の実現化が進む中で、車外の状況変化を捉えて運転支援や車体制御を行うことが必要不可欠である。その実現のためには、カメラセンサ等で得た情報を高信頼性の通信手段で車内のコントロールユニットに伝送する必要がある。通信配線においては電線及び光ファイバによる標準化が進められている中、本事業において通信用光部品とコントロールユニットに関するEMC特性評価等の国際標準を開発する。	3年	52,000千円(上限)／初年度

テーマ名		事業内容	事業期間	委託予算額
募省9	狭ピッチ多心光コネクタの信頼性等に関する国際標準化	ビッグデータ利活用、クラウドサービスなどIoTに関わるサービスの発展により、より大規模なデータセンタの構築・運用が求められている。そのような中、データサーバ、ルータ内等の超大容量・高密度データ伝送のための配線技術を実現するための一要素として狭ピッチ多心コネクタの開発が進められている。本事業において、狭ピッチ多心コネクタの信頼性や高密度化に関する国際標準を開発する。	3年	5,000千円(上限)／初年度
募省10	高画質走査型レーザーディスプレイの光学特性及び画質測定方法に関する国際標準化	指向性・集光性が高い理想的な点光源であるレーザー光源を用いたレーザーディスプレイデバイスは、従来のLCD、OLEDに比べて省エネルギーであり、さらには何処にでも画像を投影することができるため省スペースかつ可搬性が高いという特性があり、今後の市場拡大が期待されている。本事業では、レーザーディスプレイの中でも省エネ効果が高く小型化・低コスト化が可能な走査型レーザーディスプレイの光学特性及び画質測定方法に関する国際標準を開発する。	3年	18,000千円(上限)／初年度
募省11	カーボンナノ高密度膜の密度および伝熱特性測定に関する国際標準化	モバイル機器の高性能化やパワー半導体の高出力化に伴い、放熱課題が顕在化し、多くの電子機器でさらなる小型・高集積・高性能化が困難となっている。また省エネの必要性も年々高まっており、熱回収再利用の高効率化が求められている。カーボンナノ材料の高密度膜は、高熱伝導、高機械強度特性から放熱・伝熱をはじめ広い応用が期待されるが、その密度測定法や熱伝導特性評価法は未だ確立されていない。本事業では、カーボンナノ高密度配向膜の密度測定法及び熱伝導特性測定法に関する国際標準を開発する。	3年	22,000千円(上限)／初年度

平成29年度新エネルギーに関する国際標準の獲得・普及促進事業委託費
新エネルギー等国際標準開発に係る国際標準開発テーマ一覧

別紙資料1

テーマ名		事業内容	事業期間	委託予算額
募新1	エネファームのリモート運転に関する国際標準化	エネルギーの効率的利用を実現するエネルギーマネジメント分野では様々な機器が連携するため、通信プロトコルなどの国際標準化が急速に進んでいる。スマートシティのように限定された地域でのエネルギーマネジメント向けに、日本が先行している家庭用燃料電池システムのリモート運転に必要な通信プロトコルや関連機器(スマートメータなど)の基本仕様について国際標準提案を行う。	2年	35,000千円(上限)／初年度